

港湾改修事業の再評価項目調査書

事業名	鳥取港 千代地区 防波堤整備事業		事業主体	中国地方整備局
所在地	鳥取県鳥取市			
事業概要	<p>鳥取港は、日本海に注ぐ一級河川千代川の河口左岸に位置し、対岸には広大な鳥取砂丘が広がっている。背後圏には、行政、経済、文化等のあらゆる面で中心的役割を担う県庁所在地鳥取市を有している。</p> <p>こうした中、本港は県東部経済圏の拠点港として発展し、昭和50年に重要港湾の指定を受け、51年3月には、港湾計画が承認、同年4月より多目的物流ターミナル整備事業が開始された。これに合わせ、昭和52年4月より物流ターミナル施設の荷役向上を図るための防波堤整備事業に着手し、現在は、消波対策等の整備を推進している。</p> <p>一方、入出港のため航行船舶が利用する千代航路は、日本海特有の冬季風浪や台風等の厳しい気象海象条件によって、港口付近に特殊波が発生し、その影響により船舶の入出港待ちや航行の安全性に重大な影響を及ぼしている。そのため、年間を通じて安全かつ利用しやすい港とするため、平成11年より新規航路（西浜航路）の開設に必要な西側への防波堤延伸事業を実施している。</p> <p>本防波堤は、安全且つ効率的な荷役による物流の効率化や航行船舶の安全を図り、地域経済や地元産業の安定、発展に寄与するものである。</p>			
事業採択年度	昭和52年度			
総事業費	約408億円	既投資額	平成16年度末まで約312億円 (進捗率76%)	
再評価の必要性に関する視点	<p>ア) 事業をめぐる社会情勢等の変化</p> <p>中国横断自動車道姫路鳥取線などの基幹的なネットワーク整備に伴い、京阪神地方との結びつきが強化され、ますます発展が期待される。</p> <p>イ) 費用便益分析(平成17年度価値換算による) (残事業) 事業全体</p>			
	本事業に要する費用(総費用)		本事業による効果(総便益)	
	建設費		港湾貨物取扱の効率化に伴う便益	
	総事業費 1	(96) 408億円	輸送費用削減便益 (0.0) 974.9億円	
	2	(91.4) 398.3億円	小型貨物船舶の入出港待ち回避便益	
	現在価値事業費 3	(78.4) 754.1億円	(12.6) 0.0億円	
	管理運営費	(0.0) 56.8億円	避難機能の確保による海難事故損失の回避便益	
	再投資費 4	(5.8) 5.8億円	避難便益 (234.2) 234.2億円	
	総費用(C)		残存価値 5	(0.9) 13.0億円
	+ + = (84.2) 816.7億円		総便益(B)	
1: 既に登録されている当事業に必要な費用 (消費税含む。)		+ + + = (247.7) 1,222.1億円		
2: 既に登録されている当事業に必要な費用 (消費税除く。)		5: 評価対象期間末時点で、当該事業に残っている価値		
3: 将来または過去の費用を、現在の価値に換算したもの。				
4: 荷役機械、上屋が耐用年数を迎えたと想定する場合の建設費				
評価対象期間内 = 整備期間 + 50年				
費用対効果分析の結果		前回評価時	B / C = ( - ) 1.1	
		今回評価時	B / C = ( 2.9 ) 1.5	
「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル(平成16年6月)による」				

事業名	とっとりこう せんだいちく 鳥取港 千代地区 防波堤整備事業	事業主体	中国地方整備局												
再 評 価 の 必 要 性 に 関 する 視 点	<p>ウ) 貨幣換算しなかったが定性的に評価できる事項</p> <p>1. 利用満足度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 賀露地区ボートパークの係留船舶（約300隻）及び漁船の入出港回避が減少し安全満足度が向上する。</li> <li>・ 現開口部に比べ、西浜航路の整備により港外側への航行距離が短縮される（約2km）事による移動時間の短縮による満足度の向上。</li> </ul> <p>2. 地球環境への負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貨物の陸上輸送距離大幅短縮による化石燃料の節約及び自動車排出ガスの低減。 （CO2 1,389.1トン/年 NOx 37.6トン/年）</li> <li>・ 大型車両の走行機会の減少による主要幹線道路等の維持修繕費とこれに必要な資源の節約。</li> </ul> <p>3. 地域防災への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防波堤の整備により、津波襲来時における背後地浸水被害エリアを低減できる。</li> </ul> <p>エ) 事業の進捗状況</p> <p>1. 主な経緯</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">昭和52年 4月</td> <td>千代地区防波堤（第1）着工</td> </tr> <tr> <td>昭和61年 4月</td> <td>千代地区公共ふ頭一部供用開始</td> </tr> <tr> <td>平成2年 3月</td> <td>千代地区公共ふ頭供用開始</td> </tr> <tr> <td>平成12年 3月</td> <td>防波堤（第1）（西）着工</td> </tr> <tr> <td>平成12年 7月</td> <td>事業再評価実施</td> </tr> <tr> <td>平成20年代後半</td> <td>千代地区防波堤完成予定</td> </tr> </table> <p>2. 事業の進捗状況</p> <p>工事の進捗状況</p> <p>現在、工事の進捗状況は76%であり、ターミナルの各岸壁は供用を開始している状況にある。</p>			昭和52年 4月	千代地区防波堤（第1）着工	昭和61年 4月	千代地区公共ふ頭一部供用開始	平成2年 3月	千代地区公共ふ頭供用開始	平成12年 3月	防波堤（第1）（西）着工	平成12年 7月	事業再評価実施	平成20年代後半	千代地区防波堤完成予定
昭和52年 4月	千代地区防波堤（第1）着工														
昭和61年 4月	千代地区公共ふ頭一部供用開始														
平成2年 3月	千代地区公共ふ頭供用開始														
平成12年 3月	防波堤（第1）（西）着工														
平成12年 7月	事業再評価実施														
平成20年代後半	千代地区防波堤完成予定														
事業 進 捗 の 見 込 み	<p>本事業の現在までの進捗状況は76%であり、航行船舶に安全で利用し易い港を実現するため、防波堤を所定の延長まで整備すべく順調に工事を進めている。</p>														
コ ス ト 縮 減 や 代 替 案 の 可 能 性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再生骨材の活用</li> <li>・ 廃棄物を利用したセメントの使用</li> <li>・ 建設副産物の中詰砂の代替としての利用</li> </ul>														
今 後 の 対 応 方 針	<p><b>事業継続</b></p> <p>本事業は十分な投資効果及び進捗の目途が確認されるため、本事業を継続する。</p>														